

WEEKLY SIGNAL

2019年11月22日(金) 1501号

上田八木短資株式会社

来週の市場とレート予想

	11/25(月)	11/26(火)	11/27(水)	11/28(木)	11/29(金)
無担保O/N			△ 0.087% ~ 0.001%		
銀行券	+ 300	トシ	トシ	△ 1,000	△ 1,000
財政他	△ 4,900	△ 1,000	△ 4,000	△ 2,000	+ 4,000
資金需給	△ 4,600	△ 1,000	△ 4,000	△ 3,000	+ 3,000
主要要因	国庫短期証券発行・償還(3M)		国債発行(40年)	国債発行(20年)	交付税特会借入・償還
オペ期日	共通担保資金供給 △ 4,500 CP等買入 △ 400 社債等買入 △ 400 補完供給 + 900				
オペスタート	共通担保資金供給 + 6,200				
(日本)				黒田日銀総裁の講演 小売売上高(10月) 百貨店・スーパー売上高(10月)	有効求人倍率 失業率(10月) 東京CPI(11月) 鉱工業生産(10月)
(海外)	米 ハウエルFRB議長の講演 独 IFO企業景況感指数(11月)	米 卸売在庫(10月) 米 FHFA住宅価格指数(9月) 米 新築住宅販売件数(10月) 米 消費者信頼感指数(11月)	米 地区連銀経済報告 米 耐久財受注(10月) 米 新規失業保険申請件数 (11月23日終了週) 米 個人所得・支出(10月)	ユーロ圏 マネーサプライ(10月)	ユーロ圏 失業率(10月) ユーロ圏 CPI(11月)

【インターバンク市場】

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.020 ~ 0.030
SPOT 2M	△0.020 ~ 0.030
SPOT 3M	△0.020 ~ 0.060
SPOT 6M	△0.010 ~ 0.100

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、404兆2,600億円から始まり、20日には、国債買入を主因に405兆円台まで増加した。その後は財政等要因による減少もあり、週末は404兆6,000億円となった。
無担保コールON物加重平均金利は、週初△0.058%から始まり、その後は、基礎残高・マクロ加算残高の調整を目的とした調達ニーズの高まりから、同金利は上昇基調となり、週末となる22日には△0.030%となった。ターム物は1~2W物を中心に△0.03%~△0.02%での出合がみられた。
22日に総務省が公表した消費者物価指数(全国・10月分)によると、全国CPI(生鮮食品を除く総合)は、前年同月比+0.4%となり、上昇幅は9月(0.3%)から拡大した。
来週は国内では10月の鉱工業生産指数(29日)、黒田日銀総裁の講演(28日)、11月の都区部消費者物価指数(29日)、海外ではパウエルFRB議長の講演(25日)、米地区連銀経済報告の公表(27日)などが予定されている。

【オープン市場】

CP3M(a-1+)	△0.003 ~ 0.000
TDB 3M	△0.230 ~ △0.180
現先(on/1w)	△0.050 ~ 0.000

<C P>

今週の入札発行総額は約8,000億円で、週間償還額(約4,700億円)を上回った。5・10日発行が重なり、案件数・金額共に増加し、活況なマーケットとなった。連日、商社や石油、機械業態等からまとまった金額の発行が見られた。発行残高は、先週末の20兆3,086億円から21日時点では約20兆5,400億円となった模様。発行レートは、0%近辺でほぼ横ばい推移であった。19日にCP等買入れオベが4,000億円程度オファーされ、結果は按分レート△0.002%・平均落札レート0.001%と、前回(按分△0.001%・平均落札0.000%)比で按分レートは低下し、平均落札レートは上昇した。
来週の償還総額(11/25~11/29)は、月末日の期落ち(約1兆3,200億円)を含み1兆9,000億円程度となっている。月末日スタートの発行案件が増加すると思われる、活況なマーケットを予想する。発行レートは、引き続き浅いマイナスから0%近辺でのレンジと思われる。

<TDB>

11月19日のTDB1Y871回債の?札結果は、最高落札利回り△0.1911%(前回債△0.1876%)、平均落札利回り△0.2000%(同△0.1936%)となった。22日の3M872回債の?札結果は、最高落札利回り△0.2103%(前回債△0.1989%)、平均落札利回り△0.2263%(同△0.2137%)となり、入札後は△0.220%で取引された。そのほかのセカンダリーでは、3M870回債(2/25償還)が△0.217%~△0.219%のレンジ、1Y871回債(11/20償還)が△0.205%で取引された。来週は29日に3M物の入札が予定されている。

<レポ>

新積み期間に入った足許のGC取引は、一時的に△0.09%台で取引される場面も見られたものの、概ね週を通して△0.08%~△0.07%台で推移した。
SC取引は20年169回債、170回債の引き合いが多く見られ、169回債は週を通して△0.15%~△0.13%、170回債は入札日前日までは△0.4%台~△0.3%台、以降△0.13%~△0.10%で取引された。その他2年402~406回債、5年137~141回債、10年336~356回債、20年164~166~168回債、30年62~64回債、40年9・12回債などに引き合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。